



ふじ美が原

富士見中学校
平成23年4月4日

平成二十三年度がスタートいたします。

学校教育目標

「つながりを深める人間性」「可能性を引き出す知性」「明日を切り開く感性」
を目指します。

昨年同様、ご支援とご協力をお願いいたします。

前期始業式 「答えを見つけ出す 第一歩を」

校長講話

今、二年生代表の新田克明君と三年生代表の雨宮咲輝さん、本年度に向けての決意を述べてくれました。是非、具体的な実践を通して、目標が達成出来るように頑張ってください。全校の皆さんも、それぞれ自分自身のもった目標の実現のために頑張ることを期待しています。

さて、昨年度の三月十一日午後二時四十六分、最大で震度7を記録した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）。毎年、日本全国で防災の日として、防災訓練を実施する九月一日の日の由来となっている関東大震災以来の惨事を引き起こしました。そして、皆さんと同じ中学生を含め、約三万人余りの皆さんがお亡くなりになったり、行方が分からなかったりしています。また、命を取り留めた方々も、辛い先の見えないつらい生活を強いられている現状があります。

三月十一日の当日から今日まで、震災にかかわる報道等を見たり、聞いたりする日々を過ごしながら、私は、「命」とは、「命の重さ」ということを、あらためて考えさせられました。そんな折、ふと、思い出した詩がありました。相田みつおさんが書かれた詩、「自分の番」という詩です。

自分の番 いのちのバトン 父と母で二人で 父と母の両親で四人 そのまた両親で八人 こうして考えてゆくと 十代前で、千二十四人、二十代前では・・・ ?
何と、百万人をこすんです 過去無量の 命のバトンを 受けついで
いま ここに 自分の番を生きて いる
それがあなたのいのちです それ がわたしのいのちです
自分の番
うまれかわり 死にかわり永遠の 過去のいのちを 受けついで
いま、自分の番を 生きている
それがあなたの いのちです
それがわたしの いのちです

このように、自分の過去を振り返ると、実に多くの人の命のバトンを私たちは受け継いでいます。皆さんの命も私の命も「自分の番」で生きています。今、「自分の番」を生きている私たちは、何をすることが大事なのでしょうか。何ができるのでしょうか。皆さん一人一人が、自分の答えを見つけ出す第一歩を歩み出せればと思っと思っています。
まったく新しい年度、平成二十三年度の富士見中学校が、今日より始まりました。
開校二年目を迎える、私たちの富士見中学校がどんな年になるのかは、スタートの、今、この時にあります。期待をしています。

～ 新しく共に学ぶ先生方の紹介 ～

- | | |
|-----------|------------------------------------|
| 中村 弘文 先生 | 長野県教育委員会事務局北信教育事務所学校教育課指導主事より（社会科） |
| 小林 純人 先生 | 富士見町立本郷小学校より（学校用務員） |
| 名取 みつえ 先生 | 富士見町立本郷小学校より（給食調理員） |
| 小平 合瑛 先生 | 富士見町立本郷小学校より（保健体育科） |
| 板垣 千代子 先生 | 富士見町立富士見小学校より（心の相談員及び教育支援員） |
| 五十嵐 啓一 先生 | 長野市立芋井中学校より（理科） |
| 小林 悦子 先生 | 新規（給食調理員） |
| 土屋 一弘 先生 | 諏訪市立四賀小学校より（社会科、英語科） |
| 廣木 英子 先生 | 東京造形大学大学院より（美術科） |

開校二年目となります。昨年度、保護者の皆様や地域の方々に支えられ無事、第1期の卒業生を送り出すことができました。

今年度も気持ちを新たに、一つ一つの教育活動に全力を傾けていきたいと思っております。昨年同様、暖かいご支援とご協力をお願いいたします。生徒さんのこと、学校のことにつきましてご相談、ご意見がありましたらどしどし、ご来校をお願いいたします。

富士見町立富士見中学校
諏訪郡富士見町富士見 4654 番地
TEL 0266-62-2009
FAX 0266-62-7409
伊藤十三雄